

岡山県上海事務所 専任スタッフ 馬小琳

上海で高まる自動車購入意欲

2009年3月発表の統計によると、上海市の人口は1,888万人、そのうち外来人口は517万人でした。中国で最も人口が多い都市の一つとして、上海の経済発展状況には世界が注目しています。経済が発展し、人々の収入が徐々に増えると共に、消費能力も上がってきています。住宅や自動車、旅行といった、10～20年前にはあまり消費の対象となっていなかったものの中でも、現在、自動車は消費者にとって人気のある商品の一つになっています。

2008年後半に世界金融危機が発生して以来、ほとんどの国は不景気に落ち込みました。中国も例外ではなく、金融危機の影響を受けました。

「お金より自信だ」温家宝首相はこう語りました。こうした状況の下、中国政府は内需拡大のため、4兆元（約60兆円）もの投資を決断しました。国民生活の安定を図るには2009年のGDP 成長率8%を確保することが不可欠である、という危機感のもとで、具体的な諸政策への取り組みが行われました。その結果、中国の2009年第1四半期の消費状況は上がってきています。調査によると、世界不況の影響下にもかかわらず、中国の第1四半期の自動車販売台数は268万台に達し、初めて世界一になりました。先日、私は江蘇省塩城市に行きましたが、現地で生産している韓国の自動車メーカーKIAの2009年1月から4月までの売上げは52,395台になり、前年同期の48,629台と比べ、8%も増えています。

2009年4月22日～28日まで開催された上海モーターショーは中国だけではなく、世界中の自動車業界にとって一大イベントになっており、上海をはじめ、中国各地の自動車市場に対して、中国国内のみならず海外のメーカーも注目しています。不況下にもかかわらず、中国をはじめ、世界の1,500社が今年の上海モーターショーに参加しました。前回に比べると、20%も展示面積が増え、来場者は前回は10万人を上回り、これまでで最高の60万人を記録し、開催中は数千万円もする超高級車が次々と契約されるなど、中国の自動車市場の大きさやレベルの高さがうかがわれます。

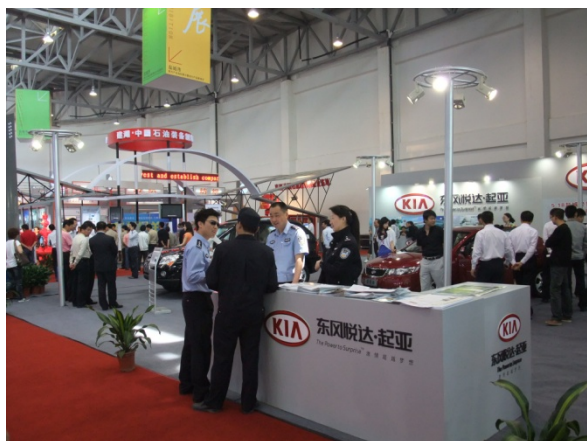


販売台数を伸ばしている韓国 KIA 社の車

上海人の自動車購買感覚

では、上海人の自動車購買感覚はどうなっているのでしょうか。上海はすでに中国の金融・経済の中心になり、上海人の自動車に対する要求もますます高くなってきました。上海人の消費志向として、高品質でいいブランドは自分の身分を表すと考える上海人は16.9%に達するといわれています。自動車のブランドでは上海

のワーゲンとGMが上海人の好みにあります。「安い車を買うよりタクシー」が上海人の自動車に関する消費傾向をはっきりと表しています。車が主人の顔であり、「面子」にかかわるため、安い車には手を出さず、入念に検討した上で1ランク上の車を買うのです。車の購入にかかる時間に関する調査によると、購入を考え始めてから最終的に購入に至るまで、上海人は平均5か月間かかるといわれ、上海の消費者の慎重さや要求の高さなどが表れています。



自動車見本市の様子

上海で憧れの車を手に入れるには

しかし、憧れの車を購入するには、様々な問題もつきまといます。まず、第一に、上海市では車の総量を規制するために毎月の自動車販売台数を制限しています。具体的には発行ナンバープレート数を制限しているのですが、そのため、ナンバープレートは競売にかけられ、何十万円ものナンバープレート購入費用がかかることがあります。

第二の問題は駐車場です。上海には高層マンションが次々と建てられていますが、これらのマンションには慢性的に駐車場が不足してい

ます。十年前に建てられたマンションでは、現在のように自動車保有率が上がることなど想定されておらず、駐車場が全くない場合もあり、その後に建てられたマンションでも計画と現実とのギャップが大きく、結果としてマンション内の道路や公共スペースに駐車せざるを得ないため、緑豊かなはずのマンションが車で一杯になるのです。

第三の問題は交通渋滞です。爆発的に増えている自動車に対して、来年に万博を控え各地で道路工事が進められていますが、これからも自動車の増加と道路建設の競争は続くでしょう。

上海の経済発展と共に、人々の消費能力も上がっています。経済的で実用的な消費意識から、ブランド志向に転じてきつつあります。これからも、自動車を購入する人々はますます増え続けるでしょうが、経済の発展に寄与する一方、深刻な交通問題や環境問題も解決していかなければなりません。2010年上海万博のテーマは「より良い都市、より良い生活」。人と車と都市の共存に向けた努力は、今日も続けられています。